

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007 年度～2010 年度

課題番号：19330075

研究課題名（和文）契約文書からみた英領植民期ビルマ（ミャンマー）農村経済の研究

研究課題名（英文） Study on the Village Economy of Colonial Burma (Myanmar) Based on an Analysis of Contract Documents (Chitti Sajouk)

研究代表者 高橋 昭雄

（東京大学東洋文化研究所・教授）

研究者番号：90282706

研究成果の概要（和文）：ミャンマーには、英領植民地期に地主と小作、金貸しと農民、相続人と被相続人等の間で作成された土地の売買、貸借、質入、相続等に関する地方文書が大量に残っているが、これまでの研究でこれを利用しようとするものはいなかった。本研究ではこれらを収集・整理し、データベース化して、農民・農村から見たミャンマー植民地研究という新たな研究の地平を切り開くための基礎を作った。

研究成果の概要（英文）：Various written contracts on agricultural lands were made between landlords and tenants, moneylenders and farmers, sellers and buyers, inheritees and inheritors, etc. under the British rule in Burma (Myanmar). The types of contracts were mortgage, pawn, trade, inheritance, etc. Those are called “Chitti Sajouk”s and we can collect them even nowadays. However, no one has used them as materials for studying economic history of Myanmar. This research project included collecting many Sajouks, classifying and filing them, and creating databases by scanning and tabulating. Moreover, it provided the foundation for reconstructing colonial history of Myanmar from the viewpoint of farmer and villagers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008 年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2009 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2010 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
年度			
総計	10,000,000	3,000,000	13,000,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：経済史、農業経済学、植民地経済、アジア研究、ミャンマー、土地制度史

1. 研究開始当初の背景

(1) イギリス植民地期（1826～1948 年）、未開の地イラワジデルタの開発による米の増産は、1930 年代には英領ビルマを世界一の米輸出国(地域)に押し上げた。こうした背景から、英領ビルマの米輸出経済の発展とそれにとまなう農村・農民経済の変容について数多くの研究がなされてきた。

(2) とりわけ 1910 年以降の農地の流動化と

小農の土地喪失は、「植民地期、ビルマ人は奴隷状態にあった」という言説や、独立後の農地国有化政策、ひいてはビルマ式社会主義に結びつく問題であるため、ビルマ経済史研究の主要な課題のひとつである。また同じような発展過程をたどってきたタイやベトナムの米経済との比較研究という点でも、この分野の研究は重要である。

(3) ところが、植民地期ビルマにおける農地

の流動と集積および農民負債についてのこうした研究はすべて農民からの聞き書きや植民地政庁の地誌や行政報告書に基づくものであり、実際に農民同士あるいは農民と金貸しや地主との間に直接交わされた、本研究で扱う契約文書に基づく研究はこれまで一切なされていなかった。

2. 研究の目的

- (1) イギリス植民地時代のビルマ(1986年から1948年)において作成された、通称「チッティーサージョウツ」と呼ばれる土地の権利移動や借金に関する手書きの文書を大量に収集する。文書はデルタ地域で数多く発見されているが、エーヤーワディ川上流の上ミャンマーと呼ばれる地域や山間部の少数民族地域に存在する可能性も調査し、データの偏在性を少なくする。
- (2) ある程度の収集が進んだら、文書が書かれた目的別に分類・整理し、スキャナーとソフトを使ってデータベース化する。
- (3) さらにこれを表計算ソフトとそのアドインソフトを利用して、統計的に分析し、最終的には、植民地期ビルマの農村経済像の再構築を図る。

3. 研究の方法

- (1) ミャンマー国中を廻って文書を収集する。さらには、文書の収集家のいるロンドンやシンガポールにも行って、文書の写真を撮る。
- (2) 文書を抵当権設定、小作、相続、売買等、目的別に分類してスキャンし、地域や契約の当事者等について、エクセルで表を作成して、データベースを作成する。
- (3) データベースをもとに、分類ごとに統計的分析を行い、論文を執筆する。

4. 研究成果

- (1) 1万枚前後のチッティーサージョウツを収集することができた。ただし、同文書は植民地ビルマ全土の存在するものと仮定して、収集を進めてきたが、ほぼ下ビルマにしか存在しないことがわかった。例外的に中部ミャンマー、ミンジャンのものを何部か収集できた。
- (2) 抵当に関しては、701部(1884面)をスキャンし、日付(ビルマ歴と西暦)、場所、抵当権設定者の名前と住所と職業、抵当権者の名前と住所と職業、抵当物件、抵当の型(後述)、返済額と期間、現物か現金か、利子率、収入印紙の額、の各項目を設定し、エクセルで表を作って、データベース化した。
- (3) 抵当流れに関しては、321部(1168面)を同様の方法でデータベース化した。
- (4) 農地の賃貸借すなわち小作契約に関しては、325部(528面)をスキャンし、日付(ビ

ルマ歴と西暦)、場所、所有者の名前と住所と職業、小作人の名前と住所と職業、小作地の地籍番号、面積、小作料、小作料の支払い方法(現物か現金か)、収入印紙の額、の各項目を設定し、同様にデータベース化した。

(5) 従来の研究では、植民地期の下ビルマでは、抵当権設定の際に農地の使用权は移動しないと考えられてきたが、本研究によりそうではない事例が多数発見された。すなわち、抵当権設定者の所有する農地の用益権が抵当権者に渡らない近代的な抵当権は、「レツメー」、用益権が移動するすなわち土地の質入は「レッシあるいはレツヤウツ」と呼ばれて区別されており、両者が并存していることが分かった。

(6) 従来の研究では、植民地期になって、買い戻し権付きの土地売買は消滅したといわれてきたが、本研究により、わずかではあるが、買い戻し権付き売買の契約文書が発見された。

(7) 小作料については、政府の報告書のように地域によってきれいに分かれておらず、同じ郡の中でも、大きな差異があることが分かった。

(8) 上記のように、収集、データベース化、その過程での新たな発見は一応進んだが、研究期間中に、頸椎ヘルニアで長期療養したり、ミャンマーでデング熱に罹ったり、さらには最終報告書執筆時点で、憩室炎により長期入院するなど、健康上の理由で、学術論文をまとめるまでの段階には至らなかった。研究期間は終了したが、データベースをもとに論文の執筆を進めたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

“On Chitti Sajouk in Colonial Burma” *Burma Studies International Conference 2010*, held from 6th to 9th July, 2010 at Marseille, France.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 昭雄

（東京大学東洋文化研究所・教授）

研究者番号：90282706

(2) 研究分担者

（ ）

研究者番号：

(3) 連携研究者

（ ）

研究者番号：